

左京区基本計画（第3期） 素案（たたき台）

令和2年3月

ごあいさつ

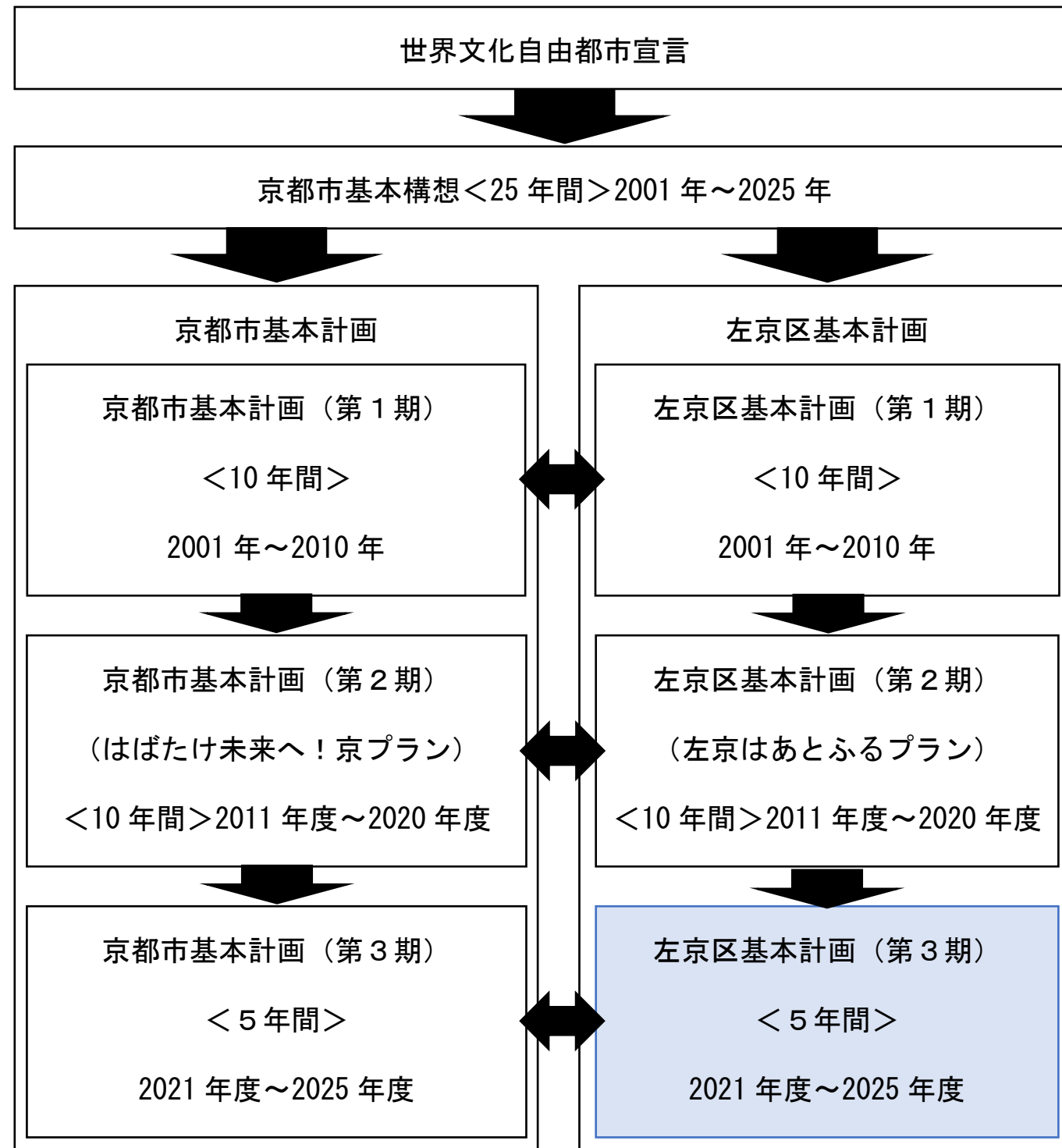
市長あいさつ

区長あいさつ

目次

はじめに	1
・計画の位置づけ	
・計画の特徴	
左京区の概況	2
・左京区の誕生	
・地勢・自然環境	
・歴史・文化	
・左京区的主要施設等	
・人口の推移	
これまでの取組と計画の方向性	4
・第1期・第2期における取組状況	
・計画の方向性	
計画の概要	6
計画推進にあたってのまちづくりの基本姿勢・要素	7
まちづくりの目標と取組	8
[目標1]美しい自然のまちづくり	
[目標2]歴史・文化・学問のまちづくり	
[目標3]ひとにやさしいぬくもりのまちづくり	
地域別の目標	13
計画の推進に向けて	14
計画策定の経過	15

計画の位置づけ



計画の特徴

- 第2期計画（左京はあとふるプラン）を基本的に継承したうえで、新たな課題や社会情勢の変化を踏まえて、整理・修正した計画
- 幅広い方々のご意見をお聞きし、皆さんの思いやアイデアを反映した計画
- 区民に広く知ってもらい、左京区まちづくりの指針・拠り所となる計画
- 左京区誕生100周年(2029年)やその先の未来に向けて、左京区の新たなまちづくりのステップ・土台となる計画

左京区の概況

1 左京区の誕生

左京区は、昭和4（1929）年に上京区から分区し、誕生しました。その後、昭和6（1931）年に愛宕郡修学院村、松ヶ崎村を、昭和24（1949）年に愛宕郡岩倉村、八瀬村、大原村、静市野村、鞍馬村、花脊村、久多村を、さらに、昭和32（1957）年に北桑田郡京北町広河原地区を編入し、現在に至っています。令和元（2019）年4月1日には誕生90周年を迎えました。

2 地勢・自然環境

左京区は、京都市の東北部に位置し、北は京都市の最北端で、南丹市や高島市に続き、東は津市に、西は北区、上京区、中京区及び右京区に、そして南は東山区と山科区に接し、区域の面積は、大阪市より広く、246.88 km²に及びます。また、区域は、大阪湾に注ぐ高野川・鴨川水系、桂川水系、琵琶湖に流れる安曇川水系の3つの水系の流域に大きく分かれ、地理的な特色からは、市街地を中心とする南部、市街地と自然が共存する中部、純農村的な北部の3つに大別できます。

京都府下で最も高い皆子山（972m）、第2位の峰床山（970m）を区域に含むなど、面積の約8割を山林が占め、峰床山の東には関西では珍しい高層湿原である八丁平があります。八丁平は、平成28（2016）年に「京都丹波高原国定公園第1種特別地域」に指定、京都市内で唯一の国定公園となります。こうした山林は、京都や大阪の水源の役割を担い、多種多様な動植物のかけがえのないすみかとなっています。また、中南部地域にも糺の森、吉田山などの豊かな自然が残されています。北部地域には、山村都市交流の森、野外活動施設花背山の家、百井青少年村などの施設があり、豊かな自然環境を生かしながら交流を進める拠点となっています。

3 歴史・文化

左京区北白川では平成3（1991）年に縄文時代早期の竪穴住居跡が府内で初めて発見されるとともに、平成22（2010）年に京都市動物園内で行われた法勝寺（平安時代後期に白河天皇が造営）の発掘調査では、高さ約80mの巨大な八角九重塔の跡が見つかりました。また、室町時代後期、慈照寺（銀閣寺）を中心に花開いた東山文化から、いけ花や茶道などの文化が生まれたと言われています。このように、左京区は豊かな歴史と多彩な文化を有する区です。

また、区内には、世界遺産に登録されている賀茂御祖神社（下鴨神社）と慈照寺（銀閣寺）をはじめとして、南禅寺、平安神宮、鞍馬寺、三千院など著名な社寺が点在し、国宝や重要文化財が多く残っています。伝統行事では、国の重要無形文化財である久多花笠踊をはじめ、市の無形民俗文化財に登録されている大文字・妙法の送り火、花脊・広河原・久多宮の町の松上げ、八瀬赦免地踊、鞍馬の火際などが各地域で継承されています。

さらに、京都市の区の中でも最も大学が多く、京都大学、京都工芸繊維大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、京都ノートルダム女子大学、京都府立大学の6つの大学（大学院のみの大学を除く）があります。岡崎公園周辺には、京都市動物園、京都市京セラ美術館（京都市美術館）、ロームシアター京都（京都会館）、みやこめっせ（京都市勧業館）、琵琶湖疏水記念館、京都府立図書館、京都国立近代美術館などの文化施設が集積しています。地下鉄北山駅周辺には、京都府立植物園、京都コンサートホール、京都府立総合資料館などがあります。

大学の集まるまちとして留学生も多く、数多くの外国人観光客も訪れます。宝が池の国立京都国際会館では、地球温暖化防止京都会議（GOP3）をはじめ、数多くの国際会議が開催されてきたほか、国際交流の拠点となっている京都市国際交流会館には、年間約28万人の来館者があるなど、左京区の国際色豊かな区でもあります。

4 人口の推移

- 左京区には、令和元（2019）年10月時点で約16.8万人が暮らししており、京都市の中で3番目に多い人口です。（図1-1）
- 年齢3区分別人口について、左京区の「65歳以上人口」の割合は約28％であり、超高齢社会（老年人口25％以上）の特徴を表しています。（図1-2）
- 人口及び将来推計では、平成2（1990）年以降、左京区の老年人口比率（65歳以上人口比率）が上昇し、一方0～14歳の年少人口比率が減少しています。（図2）
- 人口ピラミッドを見ると、令和元（2019）年時点では男女ともに「20～24歳」層が最も多く、「大学のまち・学生のまち」の特性を表しています。また、市全体と同様、「団塊の世代」である「70～74歳」のボリュームも目立つ結果となっています。（図3）
- 左京区では単独世帯の割合が約51％となっており、京都市平均（約46％）より多くなっています。（図4）

①人口と世帯数

人口	人口密度	世帯数	1世帯あたり人員	外国籍市民
167,822人	680人／km ²	84,979世帯	2.02人	5,147人

（令和元年10月1日現在の推計人口。但し、世帯数は平成30年、外国籍市民は平成27年国勢調査）

図1-2 人口

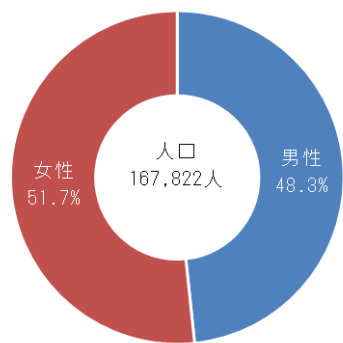
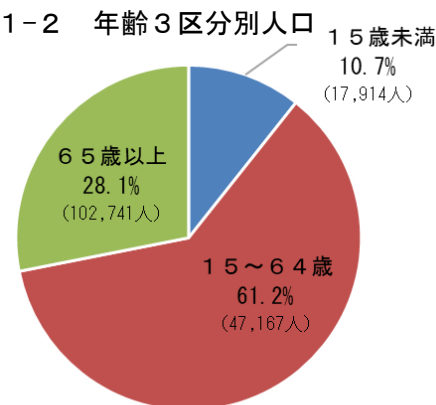
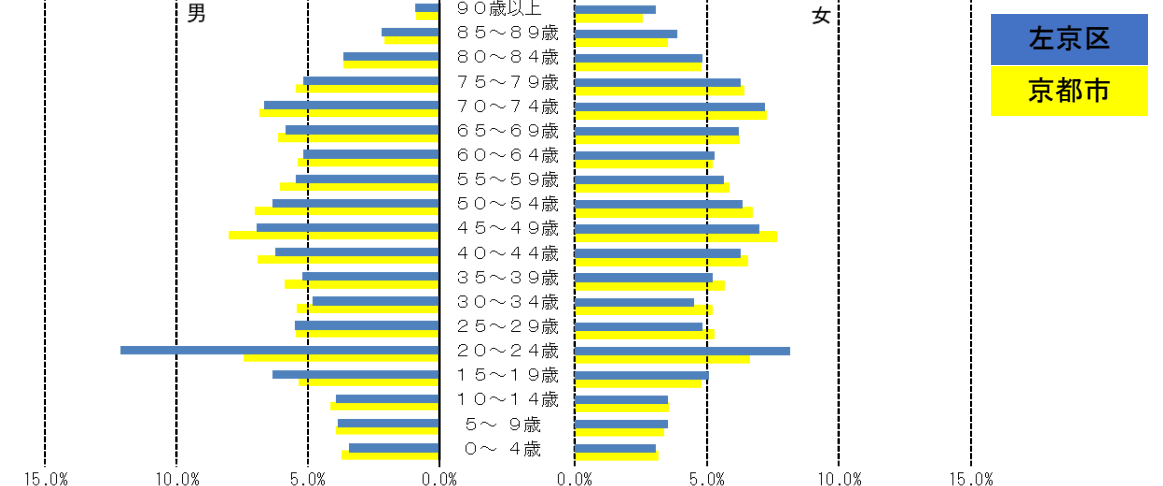


図1-2 年齢3区分別人口



③年齢階層別人口

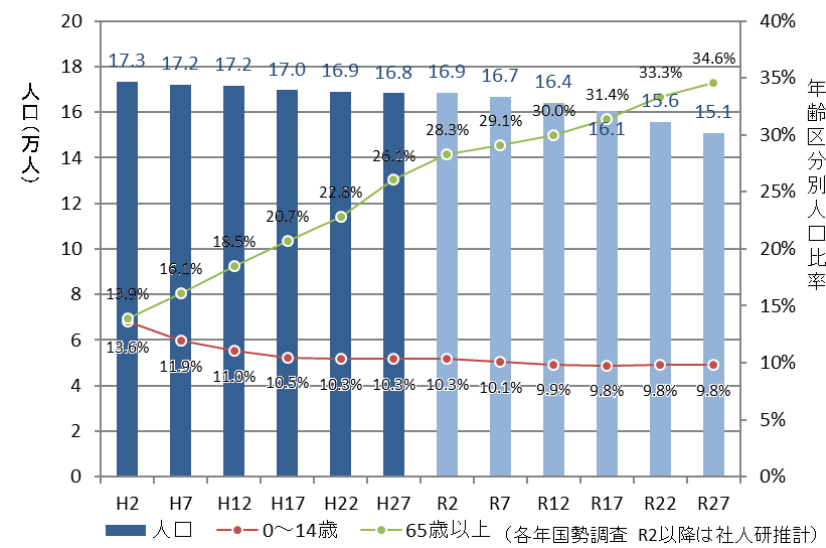
図3 左京区人口ピラミッド



（令和元年10月1日現在の推計人口）

②左京区の人口及び将来推計

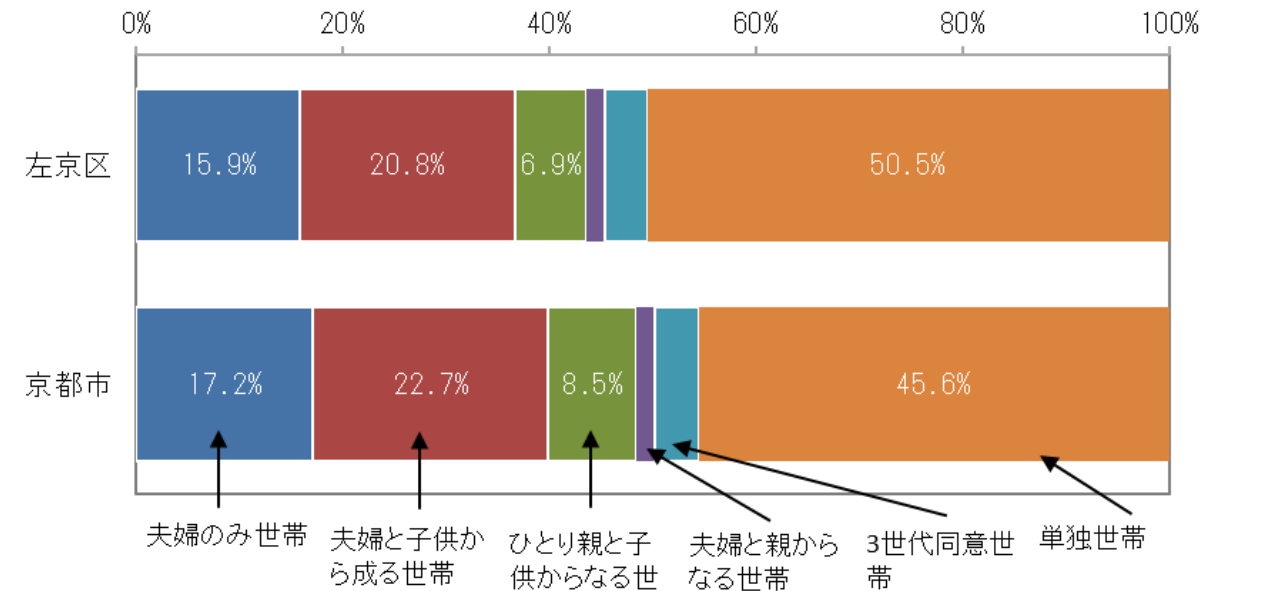
図3 将来人口推計（人口及び年齢区分別）【左京区】



（各年国勢調査、R3以降は社人研推計）

④左京区の世帯型別世帯割合

図4 左京区世帯型別世帯割合



（令和元年10月1日現在の推計人口）

これまでの取組と計画の方向性

第1期における取組状況 (2001～2010年)

歴史

- ・伝統行事を収録した観光振興用 DVD の作成
- ・伝統行事の保存会等のネットワークづくり
- ・「知られざる歴史的文化遺産の再発掘とまちづくり資源としての整備」をテーマにしたシンポジウムや講演会の開催
- ・散策マップや歳時記マップの作成



文化

- ・煎茶会、いけ花教室、文化フェスティバル、作品展を開催
- ・区民による身近な文化の更なる創造



学問

- ・大学と地域の相互交流促進事業による、大学と地域の協働による魅力あるまちづくり
- ・大学等の研究者による区民講座を開催



緑 民あ がふ れる 会 い 'ま ふれ あ う 場

- ・左京区民ふれあいまつりをはじめとする区民ふれあい事業
- ・人権啓発事業
- ・心ときめき芸術祭の実施
- ・誰もが互いの人権を尊重するまちづくり
- ・新左京区総合庁舎の整備



第2期における取組状況 (2011～2020年)

目標1 美しい自然のまちづくり

- ・チマキザサ再生プロジェクトの推進
- ・「農」を活かした北部山間地域魅力創造プロジェクトの推進
- ・北部山間各地域における夏・秋祭りの実施
- ・学生向け自転車啓発「今出川通作戦」の実施等、自転車の安全利用の啓発
- ・二ノ瀬トンネルの完成・開通
- ・各地域における防災訓練の実施や避難行動マニュアルの作成



目標2 歴史・文化・学問のまちづくり

- ・左京・地域ゆかりの文化発信・継承プロジェクトの推進
- ・「左京・食と伝統の文化フェスタ」の開催
- ・岡崎地域活性化推進事業の推進
- ・京都市動物園、京都会館、京都市美術館、京都府資料館のリニューアル
- ・「左京×学生縁ねっと」の実施
- ・京都府立大学との共同研究による伝統文化の保存・継承のための調査の実施
- ・京都精華大学との包括連携協定の締結



目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

- ・「左京 ほっこりベビーフェスタ」等、0歳児とその親を対象とした相談事業や交流の場づくり
- ・「左京・からだの学校」による高齢者の健康づくりと仲間づくり
- ・認知症の方やその家族を対象とした居場所づくり
- ・区役所での授産施設の作品の販売コーナーの設置
- ・4箇国語による左京区防犯・防火ハンドブックの作成や地域の見守り活動への支援
- ・「みんなでつくる左京朝カフェ」の開催
- ・「左京まちづくり交流会」の開催
- ・まちづくり活動支援交付事業の実施



＜計画の方向性＞

＜第2期＞2011～2020

左京はあとふるプラン

＜計画の目指すところ＞

自然を愛で、歴史を学び、文化を楽しむ
「豊かなところ」を大切に伝えます

- 目標1 美しい自然のまちづくり
- 目標2 歴史・文化・学問のまちづくり
- 目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

地域別の目標

15の取組分野

各分野において取組を推進

○今後の課題

＜これまでからの課題＞

＜新たな課題＞（社会情勢の変化等）

- ・SDGSの機運高揚
- ・社会的孤立の顕在化
- ・人口減少による担い手不足
- ・価値観・ニーズの多様化
- ・外国籍市民の増加 等

＜第3期＞2021～2025

左京はあとふるプラン⁺5（仮称）

＜計画の目指すところ＞

- 目標1 美しい自然のまちづくり
- 目標2 歴史・文化・学問のまちづくり
- 目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

地域別の目標

12の取組分野

まちづくりの基本姿勢・要素

- 1 SDGS「誰一人取り残さない」の理念を踏まえたまちづくりの推進
- 2 住民同士や地域間、各団体間、事業者間等における「交流・つながり」の促進
- 3 区民・事業者や様々な団体・機関による参加・連携・協働によるまちづくりの推進
- 4 「左京ファン」の拡大とまちの「担い手」となる人材の育成
- 5 多様な人が互いを尊重しながら共に生きるまちの推進
- 6 歩きやすい・歩きたくなるまちの推進

各分野において取組を推進

各分野横断的に取組を推進

《区誕生100周年、さらにその先の未来に向けて》

持続的に発展するまちづくりのサイクルを確立

推進体制の充実

★「目標1～3」
を継承

★「取組分野」
を整理・修正
（新たな課題、社会情勢等を踏まえて）

各分野 個別的課題

横断的課題

★新たに「まちづくりの基本姿勢・要素」を設定
（新たな課題、社会情勢等を踏まえて）